

高齢者が生き生き人生を全うするための協働

取材日：平成22年（2010年）9月17日

【活動目的】

パートナーズオブライフ（POL）の活動目的の一つは、高齢者でも出番のある社会を目指し、傾聴を基盤とするキメの細かい高齢者向け福祉事業で社会参加し、利用者との“こころの交流”を図り、共に生き生きとした人生を全うすることである。

POLは、船橋市福祉サービス公社の「傾聴ボランティア養成講座」を受講した第3期生の有志が発起人となって平成19年5月に設立された団体である。その主な活動内容は、①傾聴のスキルを習得した会員による、在宅高齢者や福祉施設利用者の“こころ”を丁寧に聴く傾聴ボランティア活動、②高齢者施設側と協働した余暇活動の支援活動、③会員ボランティア員の教育研修スキルアップ活動等である。

【支援金事業】（支援対象経費総額 110,442 円 支援金確定額 70,000 円 支援率 63.38%）

事業立上型として採択された内容は、船橋市内の特別養護老人ホームやディサービスセンターを舞台に、近隣の高齢者や小学生を招待し、施設利用者と共に昔懐かしい遊びや紙芝居等の縁日祭りをを行う。祭りの終了後に全員で懇談する。後日、高齢者心理の専門家を招き、高齢者福祉に関心のある一般公募の方も参加して、検討会を開催し、改善点を探りながら次の縁日祭りに反映させていく事業である。

施設利用の高齢者と子ども達が、昔懐かしい紙芝居、こま回し、けん玉等の遊びを通して一緒に楽しんでもらい、高齢者には心の安定と活性化を期待するとともに、孫の世代には世代を超えた自由な交流な場を提供し、地域コミュニティの回復・充実に少しでも寄与していきたいとの思いが込められている。

【第一回縁日祭りの開催】

今年度の第一回縁日祭りは、8月27日（金）午後2時から3時まで船橋健恒会ケアセンターで開催された。1階ロビーを使って行われ、近隣の子ども、健恒会利用者など総計63名の参加があった。当日は、旧文部省唱歌の合唱からプログラムが始まり、支援金を活用して紙を大きくした紙芝居（好評であったとのこと）、こま遊び・ダルマ落とし・けん玉・紙風船・糸電話・折り紙等の昔懐かしい縁日遊びに大いに盛り上がったとのことだった。

しかしながら、遊んでいるうちに3時のお茶の時間となってしまう、参加者との話し合いを持つ時間が得られなかったとのこと。後日、小学生から「大変勉強になった」、健恒会からは「成功だった」との感想が寄せられているとのことだった。

参加人数については、当初近隣の子ども達をできるだけ多く（20名程）集めたいとして、8月7日の当健恒会で開催された夕涼み会で、「昔懐かしいおもちゃで遊ぶ」コーナーを設け、体験の傍ら、付き添いの父兄に縁日祭りの案内ビラを約80枚配布したそうだが、結果的には5～6年生中心に6名の生徒の参加にとどまったとのことだった。この点に関しては、PTAや小学校の組織にも働きかけた方がよかったかもしれないとの意見も出されていた。

なお、今回の反省を踏まえ、第二回縁日祭りが9月25日に朋松苑（ディサービスセンター）にガールスカウトを交えて開催されることになっている。また、今回の支援金事業の一環として、専門家によるセラピー講演会が10月12日に行われる予定になっている。



好評を得た紙芝居

【事業に期待される効果】

本事業の効果について、高齢者が縁日祭りをきっかけに昔のことを思い出し、話し合うことによって、自身の置かれている現状を認め、生きる力を獲得できるいわゆる回想法の効果を挙げている。孫世代の子ども達にとっても、日頃身近ではない祖父母世代の高齢者に接することにより、家族や学校では学べない多くの経験、知恵、歴史、そして情操等の取得・体感ができるとしている。

主催者側にとっても、準備段階から祭り当日までの活動を通してPOL会員自身にも得るものが多いにあったようである。

事業内容がなぜ縁日祭りなのかについては、子どもと高齢者がともに楽しめることを挙げている。高齢者には認知症予防と進行抑制効果、生き生き人生の全うといった回想法の効果、子どもにとっては遊びの場になり、知識・経験・知恵・情操・礼儀の取得につながっていくものであるとしている。

【今後の活動】

21年度までは高齢者施設利用者の縁日祭りとどまっていたが、今年度から地域の子ども達を巻き込んだ「縁日祭りⅡ」を開催している。今後の対象について、将来的には小学生から中学生、高校生、大学生、さらには現役世代をも組み込んで、世代を超えた交流による新地域コミュニティの創世を目指していきたいとしている。

そのためにも、会員ボランティアの拡充・強化が急がれるとのことで、独自の教育研修スキルアップ活動も展開しているようであるが、思うようにいってはいないとのことであった。現時点の会員14名中ほとんどの方が傾聴ボランティアの高度のスキルを有しているが、同程度のスキルを有した人の参加が現状では見込み薄とのことで、このままでは会の存続も近い将来、危機に直面しかねない深刻な状態でもあるとのことであった。

【取材を終えて】

本事業の目的について、高齢者が生き生き人生を全うでき、同じ保護対象である子ども達と一緒に地域コミュニティの復活を目指していくことが挙げられている。現状の地域コミュニティは様々な要因が絡んで益々衰退化しつつあると言われていた一方で、趣味やサークル活動は活発化してきているともいえる。地域コミュニティの回復・充実に向け、高齢者同士、そして孫の世代も加わった自由に交流できる場を協働によって提供していきたいとの本事業の熱き想いには大変心が打たれるものがあった。

関わり先（連絡担当者） パートナーズオブライフ 代表 鈴木 輝喜 TEL：047-464-1455
--